

# 収入向上・女性の自立

## 技術は身を助ける Mulanとバニグのその後

前号でご報告の トゥヤン村に結成されたバニグで収入向上を目指すグループ Mulan のその後をお伝えします。

3月訪問時にスタッフが持ち帰ったバニグ製マットは、日本古来のイグサ製ゴザ同様、節電の日本で夏を涼しく過ごすのに最適と、当初、イベント等での販売を検討しました。しかし、原価に比べて輸送コストが高くつくため、大量に仕入れるのは難しいと、当面は地元ミンダナオでの販路拡大に期待することにしました。

レイクセブで8月に予定されていた世界先住民族の日を祝うフェスタにMulanも出店する話は、イベントが10月に延期されたことでまだ実現していませんが、Mulanを支援しているPIHSのナプサさんの6月30日付報告では、トゥヤン村のあるマラパタン町のフェスタに出店したところ、ベストブース賞を獲得。その後、フェアトレード展参加の誘いもあったそうです。地元での販路開拓に向けて明るいニュースです。

トゥヤン村のMulanはPIHSが組織化を進めてきたティナガカンやパリンバン町バロンギスの健康推進住民グループの自主財源事業とは異なりますが、Mulanメンバーの収入向上は家族の健康推進、健康な村作りにも役立つもので、PIHSとして今後とも活動を応援したいと伝えてきています。



HANDS 事務所でも写真のマット、バッグなどバニグ製品を数点お預かりしています。関心のある方ご連絡ください。

## COWHED の活動から

6月2日に予定していたCOWHED訪問は、P1でも報告のように、キアミからの復路に時間がかかり、取りやめたため、注文した製品をジェマさんがジェネラルサントスの滞在先まで届けて下さいました。用事でダバオに行く途中ということで、あまり時間がないなか、熟練縫製技術者が未だにピポットさん一人だけのため、

発注品がなかなか期限までに受け取れない問題と解決策等を少しだけ話し合いました。

帰国後、メールで、私たちが5年前に支援した「伝統の家」の敷地内湖側斜面にミシン数台がおける建物を建設中であること、その一部はCOWHEDのもう一つの活動、ヘルス部門の事務所になる予定と知りました。自己資金で始めたものの、11万ペソほど資金が足りなくて建設を中断しているということでした。

ミシンを置いて組合員の縫製技術を向上させてほしいと私たちも願っていますが、今回の建設資金不足分支援の余裕はないので、当面は「お買い物して国際協力」を市民の皆さんに呼び掛けながらCOWHEDの活動を支えていきたいと思えます。

ティナラク織と異なり、初心者にも制作しやすいビーズ製品の日本での購入が増えると、若い母親も収入を増やせます。真鍮細工を組み合わせたIDカードホルダーなど、どうぞご利用下さい。



## ジャガイモ栽培でプランテーション化阻止

6月初め、CMIP農業指導者エルメールさんの案内でスプ村のジャガイモ畑を見てきました。すでに大根やトマトも試しましたが、山の涼しい気候に適していて、かつ、悪路の輸送に耐えるものということでジャガイモに期待がかかっていました。しばらくして20kgも収穫できた、この地域の土壌が十分肥沃なことも分かったという報告が届きました。

モデル農場の成果に基づいて、CMIPとしては資金のめどがつき次第、このスプとフィタック両村で、ジャガイモや他の高原野菜栽培事業を実施し、プランテーション企業に農地を貸さなくても、収入が確保できることを目指しています。この2村は、2007年度に国際ボランティア貯金で水道を建設したところで、灌水が必要な乾季も心配せずに済みます。

(山崎)